

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4472600750		
法人名	社会福祉法人 豊後大野市社会福祉協議会		
事業所名	グループホームふれんど		
所在地	大分県豊後大野市緒方町馬背畑1875番地		
自己評価作成日	平成23年9月10日	評価結果市町村受理日	平成23年12月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4472600750&SCD=320&PCD=44
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人第三者評価機構		
所在地	大分市大字羽屋21番1の212		
訪問調査日	平成23年10月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

静かな森林の中で散歩を楽しんだり、デイサービスに来る人たちと交流を持ったり、のんびりとゆっくり楽しく生活できるように支援しています。また自己選択を尊重し、家事や行事に参加できるように色々なメニューを考えケアしています。
敷地内の畑には季節の野菜と一緒に植え、収穫した野菜は料理に使って入居者と職員が同じ食卓を囲み食事を楽しんでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

静かで自然豊かな環境に位置しており、ホームの棟続きにデイサービスが併設されています。隣接する広場では地域の方との交流も盛んで地域の行事に参加したり、ホームに遊びに来たりと馴染みの関係を継続されている利用者もみられます。事業者も認知症の啓発に取り組むことで地域貢献に役立っています。運営推進会議では、事故、ヒヤリ・ハット事例を公表し、その対応を評価してもらうことで、家族の安心を得ると共に、職員の意識向上とサービスの質の向上に活かしています。又理念の実践への管理者、職員の誠実な取り組みが、利用者へのやさしさ、思いやりとなって実を結んでおり、利用者がここに住んで良かったと心から思えるホームづくりを目指し、日々のケア実践に取り組んでいる姿が伺えます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「利用者一人一人の普通の生活や権利を守ります」「人が見ている時も見ていない時もいつも変わらない対応」を基本理念とし、日々利用者に関わる際は理念を意識して取り組むよう努めている。	「基本理念」は「運営方針」と共に玄関に貼られ、家族や来訪者の目に触れる場所に掲示されています。職員は出勤時やミーティングで必ず目を通すことで、理念について共有を図り、尊厳のあるサービスの支援に結びつけています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域で行われる祭りや収穫祭等の行事に参加し、地域住民と交流を深めている。地域ボランティアの受入れや学生による職場体験学習の受入れ等を実施している。	地域密着型サービスの意義を理解し地域交流に積極的に取り組む姿勢がうかがえます。地域の行事に利用者と共に参加したり、隣接する広場で地域の方と一緒にゲートボールを行うなど利用者や地域の人々との繋がりのある生活を大切に支援しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	人材育成の貢献として実習生の受け入れも積極的に行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で出された疑問・質問があれば次回の会議に説明を行い、参加メンバーからサービス向上につながる意見をいただいている。	運営推進会議は、2ヶ月に1回、自治会長、民生委員、市役所、利用者、家族代表、職員の構成で開催されています。事業所の実情報告とサービスの状況についての報告や意見交換を行い、サービスの質の向上に繋がっています。	運営推進会議はホームで開催されており、入所者、職員の参加もあり意見交換もされていますが、実情報告や話し合いとは別に、幅広い話題の中からテーマを決めて意見を出してもらうなど、会議の活性化を目指すことで更なる効果を挙げることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	施設等の諸問題を協議しながら改善に取り組んでいる。運営推進会議では現状報告をしたり、生活保護等の助言を得ている。	運営状況の報告、相談等市の方へ訪問し指導を仰いでいます。運営推進会議では市から提案を頂いたり、生活保護の助言を頂く等会議の場を利用して連携をとっていることが伺えます。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所での研修を行い見守りのケアを重視し、声をかけたり一緒について行くなどして抑制しないようにしている。感染症等の時は主治医の指示に従って支援している。本人・家族にも説明し、了解を得ている。	年1回研修を行うことで、職員は身体拘束の弊害を理解し、ミーティングでも職員間で注意しあうことで再認識をしています。事業所内では職員が常に寄り添い、傾聴に努めており、玄関は開錠し、拘束の無いケアに取り組んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全体会議や内部研修の中で虐待防止関連について学ぶ機会を持ち、注意を払い取り組んでいくようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	権利擁護に関する理解を深め、正しい知識のもと支援できるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者・家族の不安や疑問点を聴き、事業所のケアに関する考え方や取り組み、退居を含めた事業所の対応可能な範囲について説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1回の家族会や施設行事を計画し、交流を図りながら、意見・要望を聞く機会を設けている。また、面会時にも何かあれば聞くようにして職員間で情報を共有し意見を反映できるようにしている。	年2回、家族アンケートを取る、年数回「家族会」や「食事会」を開き家族とのコミュニケーションを取り、意見、要望等情報の把握に努めています。又運営推進会議では、家族の意見、要望表出の機会ととらえ運営に反映するよう活用をしています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設の状況に応じ管理者・職員の意見を聞き、協議を行いながら入居者・職員にとってよりよい環境を整えていけるよう反映させている。	業務中や会議の際に職員からの提案や意見を取り上げ、出来ることから取り組んでいます。管理者も職員とのコミュニケーションの大事さを痛感しており、話しやすい雰囲気作りに注力しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営状況に関しては、毎月事業報告を行い会議録等で現状報告を行い把握してもらっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修計画を立てて職員のスキルアップに役立てている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修等で知り合ったグループホームへ連絡をとり、交流する機会を作り始めたところです。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に自宅を訪問し生活状態を把握し、ホームでの生活をみていただき、施設での生活を安心していただけるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が置かれている状況や、サービスの利用状況、思いをゆっくり聞き、どんな対応ができるか話し合っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人及び家族が求めているものを理解し、入所判定会議で話し合いながら入所や他のサービスも含め話し合っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除や調理等、少しでもできる人には手伝って頂き、その都度感謝の言葉がけを行い、自分も人の役に立っていることを実感できるよう援助している。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の日々の様子や状態などを常に家族に伝えることによって、職員と家族が一緒に本人を支えていく関係を築いている。 (通院介助・外出行事) 毎年9月に家族会を開催します。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの友人・知人の方々とのゲートボールやサロンへ出向いたり、誘っていただいたりと交流の継続を支援している。また、電話連絡を取りもったり行きつけの美容院が利用できるよう昔からの付き合いを大切に支援している。	地域からの要望で作られたホームであるため、地域での認識度は高くディサービスに訪れた友人、知人が積極的に訪ねて来ます。馴染みの人々とのゲートボールや美容院に行ったり、家の近くまでドライブに行く、「ふれあいサロン」に参加する等、馴染みの関係が継続できるよう支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	声かけをして、一人ひとり孤独にならない様子が仲良く過ごせるように職員が調整役になり、支援を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて家族と連絡を取り合い、退去後の状況や相談等を随時受け付けて、サービス終了後も関係継続を図っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の係わりや、会話の中から思いを汲み取り、自分から意思表示できない人については表情やしぐさで思いを捉えケアに活かしている。	利用者、家族との話し合いや、アンケートの実施を通して一人ひとりの思いや意向の把握に努めています。又把握が困難な場合は、日々の行動や表情から汲み取り、本人の視点に立って検討し、職員間で情報を共有しケアの実践に反映させています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴を本人や家族、関係者から聞いた内容を職員が随時記入できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日健康チェックを行い、心身の状態の把握を行っている。現在出来ることを大切にしながら、継続していけるように支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要の関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員一人ひとりが、日頃の係わりの中で、思いや意見を聞いたことなどをまとめ、月1回職員全員でモニタリングをして介護計画の見直しに活かしている。	月1回全職員でモニタリングを行いケアプランの見直しを行っています。利用者の状態に合わせて、随時家族と連絡を取り合いつつ、日頃の生活状況を見ながら柔軟なケアプラン作成、実施を行っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事・排泄等身体状況及び、日々の暮らしの様子等をノートやケース記録に記入し、職員全員での毎月のモニタリングで、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状態や家族の意向に配慮し受診等の支援は柔軟に対応し、色々なケースに個別に対応し一番いい方法を選んで支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	出身地サロンとの交流をしている。又、地元消防団との避難訓練の実施を調整中である。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族が希望する医療機関に受診している。通院は基本的には家族対応であるが、不可能な場合は職員が対応し、契約時にその旨説明している。	利用者・家族の馴染みの医療機関への定期的な通院や受診が行なわれています。家族同行を基本とし、診療時の検診結果の報告を受けており、家族との共有と相互の協力的な関係作りに取り組んでいます。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	避難訓練(毎月)が行なわれ、備蓄も確保されており、安全な非難の支援に努めています。夜間時の地域の協力体制作りに向けて、消防団との連携、地域住民の参加に取り組んでいます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、既往歴や日常生活の様子他情報提供を行う。また、速やかな治療及び早期に退院できるよう適宜カンファレンスを担当医・看護師・家族と話し合いをしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りに関してあらゆる状態を考え、職員間で現在協議中。	看取り支援については、全職員で慎重に協議中です。施設における入退所に当たっての留意事項・緊急時等における対応法等は、運営規定に記載されており、入所時に説明が行われています。	「今を大切に生きる延長として看取り」について、現在の施設状況と可能な支援や、終末期における協力医療機関との連携の在り方、職員相互のチームワークへの意思確認など、全職員で協議を重ね、周知の徹底に努めることに期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時対応について、マニュアルを整備している。救急法の講習を受け、職員が参加するようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、入居者と共に避難訓練を行っている。夜間避難訓練を、地元消防団と現在協議中。	避難訓練(毎月)が行なわれ、備蓄も確保されており、安全な避難の支援に努めています。夜間時の地域の協力体制作りに向けて、消防団との連携、地域住民の参加に取り組んでいます。	非常災害時への対応策について、全職員で検討されています。より迅速で安全に配慮した災害対策への取り組みについて、一層の協議と実地訓練に期待が持たれます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	事業所内の研修により職員の意思向上を図ると共に、他の人に聞かれたくない様な事を声かけする際には、状況に応じて個別に声かけを行ったり、周囲に気付かれないような対応等を行うように心掛けている。	個人情報における利用者の尊厳については、研修において全職員間での共有が図られています。日常の介護では、折々の状況において、一人ひとりの気持ちに添える声かけに取り組んでいます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の話をよく聞いて、本人の思いや希望に近い形になるよう対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの体調に配慮しながらその日、その時の本人の気持ちを尊重して出来るだけ個別性のある支援を行っている。日常的には家庭で過ごすようにゆっくりしたり、時には町内のデイサービスや保育園と交流している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	パジャマと日常着は区別し、外出や行事の際も、その時に合わせた服装やおしゃれをしていただけるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と利用者が同じテーブルを囲んで食事が一緒に出来るように雰囲気作りも大切にしている。片付けやおやつ作りなどを利用者と一緒に行うように声かけしながら支援している。	利用者と共に食卓に付き、会話の中から嗜好の把握に努めるなど、献立作りにも反映しています。また、菜園の収穫野菜やおすそ分け作物も提供されており、楽しみの雰囲気づくりの配慮にも取り組んでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体調や状態に合わせて食べやすい様にし、毎日摂取量や体調を記録するようにしている。体調不良で十分な食事が摂取できていない方には、主治医と相談の上高カロリー補食品を出してもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員がケアの必要性について理解できるようにしている。食後の歯磨きの声かけを行い、能力に応じて職員が見守りなどの介助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック票を使用し、尿意のない利用者にも時間を見計らって誘導することにより、トイレで排泄できるよう支援している。	一人ひとりの排泄パターンの把握(排泄チェック表)やトイレサイン(本人の行動やしぐさ等)の気付き中で、個々の利用者に応じた声かけに留意しながら、負担を与えない介護(誘導等)に全職員で取り組んでいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食材の工夫や運動を働きかけることで自然な排便が出来るように取り組んでいるが、必要に応じ薬を使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の体調に気をつけて入浴をしている。湯船につかり、会話をしながらゆっくりとくつろげる入浴ができるよう努めている。	利用者の心身状況を配慮する中で、安全面に留意しながら、個々の思いに応じた支援が行なわれています。入浴剤の使用など、安らぐ雰囲気を楽しめる入浴にも取り組んでいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるよう努めている。また、ゆっくりしたいときは部屋で休んでもらったり本人の体調や状況に合わせて支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理ファイルの作成や処方箋を利用者ごとにケースに整理し、職員が内容を把握している。薬の処方や要領が変化されたり、本人の状態変化が見られる時はいつもよりも詳細な記録をとるようにし、看護職員や協力医療機関との連携を図れるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事と一緒に野菜の切込み、片付けなどできる事を依頼し、感謝の言葉を伝えている。干し柿作りやおやつ作り等利用者の経験や知恵を発揮する場面を作っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気、本人の気分や希望に応じて季節を肌で感じてもらい心身の活性に繋がるように散歩、ドライブに出かけている。地域の行事参加等を利用者と相談しながら行なっている。	生活パターンを考慮しながら、個々の利用者の思いに添った散歩や外出支援(買物・サロン・花見・ドライブ等)などが行なわれています。気分転換と健康増進に向けて積極的な支援に取り組んでいる様子が伺えます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の安心や満足に向けて小額でもお金を持っていたるように家族と相談しながら支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	贈り物が届いた時は、本人自らが電話や手紙でお礼するように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の行事に伴う飾り付けや花を飾ったり、手作りカレンダーを作り季節感を取り入れたり工夫しています。	居間の壁面には、職員と利用者の共同作品や暮らしぶりの写真が飾られるなど、四季の趣きや地域の生活を愛しむ配慮が伺えます。玄関脇のベンチの活用など、暮らし易さの環境作りに努めています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	季節に応じてホールには、椅子やソファー、畳、こたつ等を置いて落ち着いてくつろげる空間を作っている。玄関にベンチを置き、一人でほっとできる居場所作りにも努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	アルバムや使い慣れた日用品が居室に持ち込めるように配慮している。仏壇を持ってこられている方もいてその人が安心できるようにしている。	利用者や家族の思いを組み込んだ日用品等の配置の様子から、心地よく安心して過ごせる居室づくりに取り組む姿勢が伺えます。生活暦を把握する中で、安全に配慮しながら、利用者思いに添える介護に努めています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室・浴室・トイレ・廊下などに入居者の身体状況に合わせて、手すりを設置している。		